

英文論文の和文要旨

千葉 崇^{1,2}・西村裕一²・大塚泰介³：北海道当縁川河口域における過去 1000 年間の珪藻化石群集

北海道当縁川河口域において、過去 1000 年間の古環境変化を明らかにするためのバックグラウンドデータを得る目的でジオスライサー掘削調査を行い、得られた試料から産出した珪藻化石の分類学的検討を行った。検討の結果、67 属 185 種と未同定種 30 種の珪藻が分類された。またこの地域では、過去 1000 年間に大きく分けて、2 つの珪藻群集変化が認められることが分かった。さらに、分析した全試料から、調査地域周辺に分布する新第三紀海成層由来と考えられる絶滅種の化石が認められた。このことは、この地域の完新世における古環境変化を明らかにするうえで、こうしたリワークと考えられる種を識別する必要があることを意味している。

(¹〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 4-4-5 横浜アイマークプレイス 一般財団法人海上災害防止センター調査研究室, ²〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目 北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター, ³〒525-0001 草津市下物町 1091 滋賀県立琵琶湖博物館)

田中宏之¹・柳沢幸夫²・加藤悠爾³：東北日本の下部鮮新統海成堆積物から記載された淡水生珪藻の新種 *Tertiariopsis undulata*

東北日本秋田県大仙市の南外ダム付近に分布する天徳寺層（海成層）の下部鮮新統区間から、内陸湖沼から海域へと運ばれてきたと推定される淡水湖沼生珪藻化石の *Tertiariopsis costata* とともに、未知の *Tertiariopsis* の種が産出した。本論文では、この種を *Tertiariopsis undulata* H. Tanaka & Yanagisawa として新種記載する。この新種は、殻套（含ほぼ殻面／殻套境界）に 1 個の唇状突起を持つこと、殻套有基突起が 3 個の付随孔を持つこと、殻套有基突起と唇状突起が縁辺ラミナで覆われること、そして殻套に線状の無紋域で区切られた明瞭な区画があることなど、*Tertiariopsis* 属の特徴を持つ。しかし、本種は、殻面が横にうねり、片側が凸、反対側が凹になっているという特徴で、他の *Tertiariopsis* の種とは区別される。本種は、殻套内側の殻端と殻套有基突起の間に、尾根状の薄い肋（thin costa）が存在することで *Tertiariopsis costata* に似ているが、両種は殻面の形状で異なる。すなわち、*T. undulata* では殻面が横にうねっているのに対し、*T. costata* では殻面はほとんど平坦である。（¹〒371-0823 群馬県前橋市川曲町 57-3 前橋珪藻研究所, ²〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 7 事業所 産業技術総合研究所 地質情報研究部門 地球変動史研究グループ, ³〒464-860 愛知県名古屋市中種区不老町 D2-2 名古屋大学大学院 環境学研究科 地球環境科学専攻 地質・地球生物学講座 生物圏進化学研究室）

田中宏之¹・南雲 保²：北海道瀬棚町に分布する淡水成下部中新統の太櫓層から見出された新種珪藻 *Actinocyclus setanensis*

北海道瀬棚町梅花都に分布する淡水成下部中新統の太櫓層

上部嗣内部層の珪藻土から *Actinocyclus* 属の 1 新種 *Actinocyclus setanensis* を記載した。本種は円形で殻径 13.5–25 μm、胞紋列は殻縁部で 10 μm に 16–20 本、胞紋列中の胞紋は 10 μm に 16–18 個である。殻面と殻套の胞紋はほぼ同じ大きさで、外側に師板がある。1 個の偽節と複数個の唇状突起が殻面／殻套境界にあり、殻套部の垂直な胞紋列は 10 μm に約 25 本である。これらは *Actinocyclus* 属の形質である。しかし、本種は、小形で胞紋列は放射状～不明瞭な束線状を示し、唇状突起数は 2–3（稀に 4）個で少なく、柄は細く長く、外側開口周辺は厚く膨らむという形質を持ち、この組み合わせは既存の *Actinocyclus* 属の種では知られていなく、本種と区別される。

(¹前橋珪藻研究所, 〒371-0823 群馬県前橋市川曲町 57-3, ²日本歯科大学生物学教室, 〒102-8159 東京都千代田区富士見 1-9-20

²現所属：越後自然史研究所, 〒947-0041 新潟県小千谷市小栗田 719-3)

大塚泰介：Kurtkrammeria spicula (Hust.) comb. nov. の光学および走査電子顕微鏡による観察

八雲ヶ原湿原（滋賀県）で採集された資料の光学顕微鏡および電子顕微鏡観察に基づき、*Cymbella spicula* Hust. を *Kurtkrammeria* 属に移し替え、*K. spicula* (Hust.) comb. nov. とした。

(滋賀県立琵琶湖博物館 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 番地)

林 辰弥¹：長崎県の中新統中-下部の湖成珪藻土から発見された *Actinocyclus krebsii* sp. nov. の詳細観察

長崎県に分布する中新統中-下部の長者原層の珪藻土から、新種の非海生珪藻 *Actinocyclus krebsii* sp. nov. を記載した。この新種は、同心状に起伏のある殻面、浅い殻套、射出あるいは漠然と束出した胞紋、殻面から殻套まで伸びる無紋ストライプ、無紋ストライプの末端から生じる唇状突起、1 つの偽節を持つことによって特徴付けられる。この新種では、同心状の起伏構造や、唇状突起の内部の唇、無紋ストライプと唇状突起の数が、殻サイズに依存して変化する。一方で、殻面／殻套境界における環状無紋構造の外部表現形や偽節の内部表現形は、殻サイズとは無関係に変化する。非海生 *Actinocyclus* の中において、*Actinocyclus krebsii* は、比較的少数ながらも大きく、かつ込み合った胞紋を殻面に持つ、非束出グループに属する。このグループの中では、*A. krebsii* は、殻面から殻套まで伸びる無紋ストライプを持つ *A. venenosus* に最も似ている。しかし、*A. krebsii* は、*A. venenosus* よりも密度の高い殻面胞紋と長い無紋ストライプを持つ。さらに、*A. krebsii* は、*A. venenosus* のような発達した環状無紋構造と針を持つことはない。

(¹〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744 九州大学・比較社会文化研究院・地球変動講座)